

とうきょう すぐわくプログラム活動報告書

所在	東京都中野区野方1-6-3
園名	ピノキオ幼稚舎野方保育園

1. 活動のテーマ

＜テーマ＞

「自然」- 食べ物の生育を探究しよう

＜テーマの設定理由＞

海や虫に興味を持つ子どもたちが多く、園の近くにどんぐりや色んな木の葉っぱなどが取れる公園があることから、子どもたちが自然の中での食の成り立ちや生き物の変化に興味を持てるよう、「自然」をテーマに探究活動を実施しました。当初の計画では芋掘りを中心とした園の近くの自然環境を中心に活動を計画していましたが、実際の活動を進める中で、子どもたちの興味が「調理」や「植物や食べ物の生育」など、食の探究に興味・関心が広がったことから自然の中でも食べ物を中心に活動を行っていきました。計画を柔軟に発展させながら、子どもたちの「触れる」「見る」「匂いを嗅ぐ」など、五感を活用した体験活動を通じて、自然に対する理解を深めることを目指しました。

2. 活動スケジュール

令和6年9月～令和7年3月まで

子どもたちの興味・関心の向いている方向を何よりも大切に、自然をテーマに活動を行った結果、下記のような活動スケジュールとなった。

10月：いも掘りについて学ぶ、野菜の特徴を探究、いも掘り体験（五感を使った観察）

11月：さつまいも掘り、さつまいもジャム作り、匂いや味の変化を探究

12月：種や球根の探究、生育（チューリップの球根を植える）

1月：椎茸の生育観察開始、観察日記の作成

2月：椎茸の収穫、食材としての変化を体験

3月：振り返りクイズ、体験の共有

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・さつまいも等の野菜(芋掘り体験・野菜の端材スタンプ活動)
- ・観察ツール(虫眼鏡・ルーペ:種や椎茸の成長を観察)
- ・調理道具(マッシャー・包丁・フライパン:ジャム作り)
- ・タブレット(子どもたちが自分たちの考えを記録・共有)
- ・土壌改良用の肥料(チューリップの球根植え付け)

4. 探究活動の実践

＜活動の内容＞

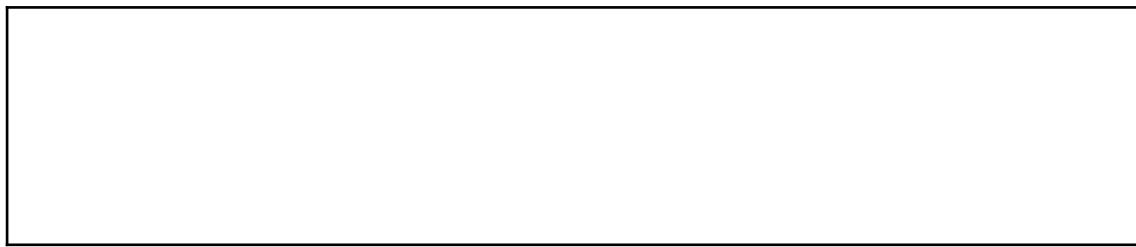
10月に実施予定だったいも掘り体験活動を探究活動と掛け合わせ、いも掘りの前に「さつまいもと他のお芋、野菜との違い」をテーマにした活動を行いました。この活動では、他の種類の芋(じゃがいもなど)や野菜(なす、オクラなど)を用意し、切ったり、ちぎったりしながら、実際に手で触れて比較しました。活動中、子どもたちは、じゃがいもとさつまいもの皮の厚さの違いを感じたり、オクラをちぎった際に「ネバネバする！くっつく！」と驚きの声を上げていました。また、保育者が「さつまいもの皮は他の野菜とどう違う？」と問いかけると、子どもたちは「じゃがいもはすぐむけるけど、さつまいもは固い！」と手触りを確かめながら話していました。保育者は、子どもたちが興味を持った点をさらに深められるように、「なんでオクラはくっつくんだろう？」と問いかけ、一緒に考える場をつくることを意識しました。また、活動を通して、「家庭ではできない経験をすくわくで提供することを大切にしたい」という考えのもと、子どもたちの学びが広がるような環境を整えました。ゲーム感覚で「生産から食べるまでの過程」に触れられるよう、プロセスカードというゲームを作成し、実施しました。この取り組みを通じて、子どもたちの興味が実際のいも掘りへと繋がりました。活動の振り返りをしながら土の中から自分たちの手でさつまいもを掘り出しました。その過程で、子どもたちは、「大きさ」「形」「土の感触」に気づき、「こんなに大きいのが土の中に隠れてた！」「形がぜんぜん違う！」と驚きながら観察していました。いも掘りの後には、収穫したさつまいもを使ってさつまいもジャム作りを行い、子どもたちは「におい」「味の変化」に興味を持ちました。野菜などはどこからスタートしているかを種から学び、育ててみたいという興味が湧き、「生育」へつながり、チューリップや椎茸の栽培を行いながら、「なぜ植物は育つか？」「生育方法の違いは何か？」を問いかけ、育成環境について考える探究活動を行いました。こうした五感を使った体験活動を通じて、子どもたちの食べ物への興味・関心が広がり、家庭でも買い物や調理に関心を持つ子が増えたり、保護者と一緒に家庭内で生育活動を行う子どもたちも出てきています。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

目では見た事のある野菜であったが、実際に触れたり切ってみたりすることで興味の湧き方が違った。切るたびに「わあー汁が出てきた」「匂いもしてきたよ」「切った方が匂いがするね」など子供同士で気付いたことを教え合う姿が見られていた。汁の出方もそれぞれ違うことに気付き、オクラは「ねばねばするー」と不思議がっていた。さつまいもの育ち方をプロセスカードを用い、グループごとに話し合いを行った。「違うよ、こっちが先だよ」などの発言が飛び交う中で、自由に取り組むことが出来ていた。プロセスを知ったことで、「さつまいもほりが楽しみになってきた」「畑に行ったら見てみよう」などのさつまいもほりへの意欲が見られていた。畑では、プロセスカードで学んだことを基に実際のさつまいもを掘り出していました。土の中に埋まっている姿を目にし、「すごい」「たくさんある」など感動の言葉が聞かれました。収穫したさつまいもを使用し、ジャム作りを行うと、家庭では「フライドポテトにしたよ」「うちは、ポテトサラダ」など、料理の種類が広がっていました。ジャムはカードで学び実際に掘って口に入るという一貫性があった。「育てる」と言うところがなかったことから、スタートは何かを考え、種や苗について学んだ。種は種の色からそのものを想像している子供が多く、手を挙げて発言する子どもが多かった。オクラの種を「ブルーベリー」と自信をもつていう子供が多かったことが印象に残った。次に生育に活動が移った。チューリップは一人ずつ丁寧に花壇に植え、「早く咲くと良いね」など話をしていた。もう一つはしいたけキットを用い、しいたけ栽培を行った。グループで一つのキットを使い、毎日の水やり、iPadを使って写真を撮り、コメントを書き、日々の観察日記を作成した。しいたけが大きくなってくると、「もう、取れるかな?」など、保育者に聞く姿も多かった。収穫の際は「これは取って良い?」「まだ小さいからダメかな?」「いっぱいなってる」など興奮気味であった。自分達で水やりなどを行うことで、「生育」への意識が高まっていた。







5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

子どもたちが五感を使って学ぶことで、興味の広がりが見られた。土や野菜に触れることで「食材になる前の状態」に意識が向くようになった。「匂い」「色」「質感」など、普段意識しない要素にも興味を示すようになった。椎茸の生育を通じて、植物の成長過程や環境の影響に关心が高まった。本活動を通じて、子どもたちは「自然」の中にある不思議を探究し、「どのように食材が育つか」「どうやって食べ物として形を変えるのか」「どのように自分たちの手に届いているのか」を考える機会に繋がっていた。当初予定していた自然のテーマではなく、子どもたちの食や生育に対する興味・关心が広がる様子にあわせてテーマが広げることができ、どのように子どもたちの主体性を伸ばす活動に繋げができるか、考えるとても良い機会になった。引き続き、「問い合わせ立てて興味・关心を広げる」探究活動を続けられるよう、保育の中で工夫を重ねていきたい。